

発行日 ● 2025年10月15日
発行 ● 一般社団法人 地理情報システム学会

目次

第34回研究発表大会のお知らせ	1p
企画セッション（聴講無料）	1p
大会優秀発表賞およびポスターセッション賞	4p
第34回研究発表大会 日程表	5p
第34回研究発表大会 アクセスマップ	6p

第34回研究発表大会 会場配置図	7p
分科会報告	9p
学会からのお知らせ	9p
学会後援事業等のお知らせ	10p

第34回研究発表大会のお知らせ

第34回地理情報システム学会学術研究発表大会を、富山大学五福キャンパス（富山県富山市）にて11月1日（土）・2日（日）に、対面のみで開催いたします。講演発表やポスター発表、シンポジウムやワークショップ、ハンズオンセッションなど多彩な企画に加え、懇親会もございますので、奮ってご参加下さい。

詳細は、大会ホームページをご覧下さい。大会開催まで変更の可能性がありますので、必ず最新の情報をご確認ください。

なお、平成27年度より、講演発表・ポスター発表の発表者には、測量CPD学習プログラムのポイントが付与されます。大会で発表した場合、(1)領収書は「GIS上級技術者」への申請にお使いいただけます。(2)「測量系CPD学習プログラム」への申請を希望する方は、**大会後にメールで事務局へ「氏名」「発表番号」「発表タイトル」を連絡下さい。**

日 程： 2025年11月1日（土）・2日（日）
会 場： 富山大学五福キャンパス（富山県富山市）
大 会： 共通教育棟・大学会館（金森産業ホール）
懇親会 大学生協食堂
大会参加費：
正会員または賛助会員（一口あたり5名まで） - 6,000円
学生会員 ----- 4,000円
ジュニア会友（ポスター発表あり） ----- 3,000円
ジュニア会友（ポスター発表なし） ----- 無料
非会員 ----- 8,000円
高校生以下・70歳以上 ----- 無料
(年齢を証明するものをお出し下さい)
企画セッションのみ ----- 無料
(申込は不要です)

懇親会費：
正会員、賛助会員、永年会員、名誉会員 ----- 6,500円
学生会員 ----- 4,000円
非会員 ----- 7,500円

※現地では受付しません。オンラインでお申し込みください。
詳しくは大会Webページをご覧ください。
(<https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/gisa2025>)

◆企画セッション（聴講無料）◆ 11月1日（土）開催

◆シンポジウム◆
【FOSS4Gの現在地～FOSS4G Hiroshima 2026に向けて～】
日 時：11月1日（土）9:00-10:40
会 場：会場A
企 画：岩崎亘典・瀬戸寿一・武内樹治

オープンソース地理空間技術に関する世界最大級の国際カンファレンス「FOSS4G Global」が2026年に広島で開催されることが決定した。このカンファレンスでは世界中のFOSS4Gに携わる研究者・技術者・自治体・企業が相互に交流することで、この分野のグローバルな技術革新や社会実装の可能性を議論する貴重な機会である。また、近年ではアカデミックセッションも併設され論文投稿も着実に増えているため、国内における研究成果を国際的に公表する、またとない機会である。

これを受け、FOSS4G分科会では、同カンファレンスへ多くの参加を募るため、複数の話題提供や講演を通じて、地図×オープンソースの最前線に関する最新の事例や知見を共有する。これらの話題提供を通じて「FOSS4Gの現在地」を把握するとともに、最後に「FOSS4G Hiroshima 2026」の開催概要やテーマを報告し、日本での国際会議開催への機運をさらに高めたい。

シンポジウムに関する詳細は以下の分科会サイトで順次公開していきます。

<https://sites.google.com/site/foss4gsig/>

◆シンポジウム◆

【GeoAI の最前線】

日 時：11月1日（土） 9:00-10:40、11:00-12:40
会 場：会場B
企 画：巖網林

近年、コンピューターの高速な処理能力の向上、時空間ビッグデータの蓄積、大規模人工知能技術の開発により、GeoAIは目覚ましい発展を遂げている。これにより、これまで高度に訓練された専門家に依存していた地理情報の分析処理が、生成系AIでも可能になりつつある。一方で、自然言語処理を基盤とする生成系AIは、時空間情報を明示的に扱うことができず、この点でGIS分野からの貢献が期待されている。そのための研究開発は、国際的に急速な成長を遂げている。GIS学会では2023年にGeoAI分科会を設立し、学術および産業の両面からGeoAIを調査し、大会企画セッションやセミナーを企画・実施してきた。これらの成果は『GIS—理論と応用』の特集号にまとめられ、2025年末に刊行される予定である。本企画セッションは、その特集内容を踏まえ、GeoAIのこれまでの進化と今後の発展をビジュアルに解説する。また本分科会が独自に開発したGIS対応生成系AIツールによるハンズオンも行う。奮ってご参加ください。

◆ハンズオン◆

【第3回 GISA×MLIT's PLATEAU研究会】

日 時：11月1日（土） 9:00-10:40
会 場：会場F
企 画：溝淵真弓

地理情報システム学会と国土交通省都市局が共同開催する「GISA×MLIT's PLATEAU研究会」の第3回開催です。今回の企画・事務局はアジア航測が担当いたします。

内容は①都市局からのPLATEAUの最新情報説明、②ハンズオンを2つ程度（PLATEAU Viewの操作講習、QGISなどのOSSを使ったデータ処理など基礎的なハンズオンを予定）を予定しています。

ハンズオンは、参加者にPC持ち込みして頂く想定です。参加者はあらかじめ事前募集を行う予定ですが（データやプログラムを事前ダウンロードして頂くため）、当日参加も可とするセッションとしたいと思います。

◆シンポジウム◆

【2025年度GIS教育実践アワード 表彰式・表彰事例報告会（教育委員会）】

日 時：11月1日（土） 11:00-12:40
会 場：会場A
企 画：塚本章宏

本セッションでは、2025年度「GIS教育実践アワード」の表彰式と、表彰者による事例報告会を行います。

「GIS教育実践アワード」は、GIS教育の普及と質の向上を目的として開催されます。高等学校の必修科目「地理総合」にGIS活用が位置づけられるなど、その重要性が高まるなか、本アワードは教育現場での優れた実践事例を表彰し、広く共有することで、教員を支援し、GIS教育全体の発展を促す機会

となります。また、表彰式と合わせて開催される事例報告会では、受賞者による実践事例の発表を通じて、教材開発のノウハウや解決すべき課題に関する情報が共有されます。これにより、より効果的なGIS教育手法の開発が促進され、教員だけでなく生徒や学生のGIS活用能力の習得にも貢献することが期待されます。

◆ハンズオン◆

【人流データの分析、可視化の現状と研究活用】

日 時：11月1日（土） 11:00-12:40
会 場：会場F
企 画：中野裕貴

人流データを研究に利用することに興味をお持ちの研究者様に向けて、ジオテクノロジーズが収集した人流データとESRIジャパンが提供しているArcGISを組み合わせて分析した事例を紹介します。また実際に研究に取り組まれている先生をお呼びし、先生の研究内容の解説をいただき人流データの研究に対する有効性や活用方法などの教示をいただきます。セッション終盤ではジオテクノロジーズ×ESRIジャパン×研究者で合同でシンポジウムを行い、人流データを活用した研究の現状と発展性についてお話しいただきます。

◆シンポジウム◆

【学生フリーテーマ発表会（若手分科会）】

日 時：11月1日（土） 14:00-15:40
会 場：会場A
企 画：関口達也

若手分科会では、研究発表大会を学生のみなさんにとって成果発表の場および研究交流の場にしていただくために、本年度も「学生フリーテーマ発表会」を企画します。今年度は1つのセッションの中で「研究発表の部」と「交流発表の部」をあわせて開催する予定です。前者は一定の研究成果が出ている学生を対象にして、通常の口頭発表に近い形で行うものです。優秀な研究発表や将来性のある研究発表は、それぞれ分科会として表彰予定です。後者は構想段階での研究発表、講義やゼミなどの取り組みを紹介することを推奨するもので、発表時間よりも質疑応答や意見交換の時間を長くとります。いずれも、学生であれば、学会員でなくとも学年や分野を問わず発表できます。他大学、他分野の学生さんと交流する機会としてぜひ発表をご検討ください。発表条件・申し込みなど、詳しくは若手分科会のサイトでご案内していきます。
<https://sites.google.com/view/gisa-wakate/>

※ 任意で梗概を提出することもできます。提出された梗概は、若手分科会サイト上で独自の梗概集としての公開を予定しています（大会のConfitの方には採録されません）。

◆シンポジウム◆

【第3回 SIG-GIS シンポジウム—我々は国際標準の動向に Catch Up できているか】

日 時：11月1日（土）14:00-15:40
会 場：会場B
企 画：太田守重

地理空間情報標準は、空間データやサービスの品質管理に役立ち、相互運用性を高め、情報共有が促進され、多重投資の回避に役立ち、世界的な一体感と信頼感を築くといわれています。一方で、その整備や活用に携わる人材の不足が懸念されており、日本は世界の状況にキャッチアップできているかという危惧もあります。このシンポジウムでは、国際標準化の現状を俯瞰し、国内で人材育成に携わっている専門家による、教育実践の状況を報告し、議論します。

◆ワークショップ◆

【GIS カードで考える新たな地域課題解決のアイデア～「最初の一歩」から「ローカライズ版アイデア創出」まで～（教育委員会・自治体分科会共同企画）】

日 時：11月1日（土）14:00-15:40、16:00-17:40
会 場：会場F
企 画：塚本章宏・青木和人

「GIS カード」は、地図情報のレイヤーカードを組み合わせて課題を解決するゲームで、GIS 活用の基本となる「情報を重ねて考える」思考を、誰もが直感的に学ぶことができます。本ワークショップでは、この「GIS カード」を実際にプレイする体験会から始め、ゲームを通じて GIS の面白さと、多様な意見をまとめ課題解決へと導くチームビルディングのプロセスを体感します。その体験を基に、参加者自身の地域や業務に特化した「ローカライズ版 GIS カード」のアイデアの創出に取り組みます。「GIS カード」を介して、具体的な課題が可視化され、地域や部署を超えた活発な対話が生まれます。カードで遊び、カードを創る体験から、地域課題解決の新たなアイデアを共有する機会とします。

なお、GIS カードとその教育プログラムの構築に取り組んでいる GIS カードコミュニティと本学会教育委員会・自治体分科会による共同企画として開催します。

◆シンポジウム◆

【地方部の子どもの Active School Travel をいかに支援するか？：地理情報科学と GIS の可能性】

日 時：11月1日（土）16:00-17:40
会 場：会場A
企 画：雨宮護

子どもの Active School Travel (AST：徒歩や自転車による登下校) を促進することは、子どもの運動不足や肥満、移動自由性の観点からも重要な課題である。しかし、日本の地方部においては、小学校統廃合による子どもの移動距離の増加、子どもの見守り手の不足、交通安全面での不安など、子どもの AST を脅かす社会的状況がいくつもある。この状況に対して、地理情報科学や GIS はどのように貢献できるだろうか？本シンポジウムでは、大会開催地である富山において子

どもの AST 把握や促進に取り組む 2 名の研究者と、他の地方部で同様の問題に取り組む 2 名の研究者による話題提供から、地理情報科学の知識や、GIS や GPS といった技術・データが、地方部における子どもの AST 促進にどのように貢献できるかを議論し、富山を含む日本の地方部における子どもの AST 促進への視座を得る。

※ 企画採択後には地元関係者にも広く声を掛け、富山での AST 促進の実践につなげることも意図する。

予定登壇者：大西宏治（富山大学）、高柳百合子（富山大学）、安部孝文（島根大学）、橋本成仁（岡山大学）
モデレータ：雨宮護（筑波大学）

◆ハンズオン◆

【調査や研究をより効果的に！ArcGIS Online セッション】

日 時：11月1日（土）16:00-17:40
会 場：会場B
企 画：酒井聰一

スマホやタブレットを使って、地図を見ながら効率的に情報収集をしてみませんか？このセッションでは、ArcGIS の現地調査アプリを使って、調査票の設計、データの収集・共有・可視化を実施します。あわせて可視化の手法としてダッシュボードの作成も行います。研究や授業にもすぐに活かせる内容となっていますので、PCをご持参のうえ、ぜひご参加ください。（ArcGISOnline サポートプラウザ：

<https://doc.arcgis.com/ja/arcgis-online/reference/browsers.htm>

◆企画セッション（聴講無料）◆

11月2日（日）開催

◆シンポジウム◆

【新しい空間データが切り拓く空間情報科学の未来】

日 時：11月2日（日）9:00-10:40、11:00-12:40
会 場：会場A
企 画：山田育穂

空間情報科学は空間データとそれを取得・構築する技術と共に進化してきました。近年では、GPS機能に基づく人流データやPLATEAUに代表される3D都市空間データ等、かつてないほどに詳細な空間データが利用可能になっています。また、ドローン、LiDAR、スマートフォンに搭載された各種センサーなど、研究者が自らデータを取得する方法も急速に発展しています。さらに、データの統融合・利活用を促進するデータコモンズといった取り組みも広がりを見せています。

このシンポジウムでは、新しい空間情報を活用した研究や、データ構築、データ利活用の取り組みを紹介します。新たな空間データや空間データ取得技術が、空間情報科学の未来をどのように形作っていくのか、一緒に考えていきましょう。

◆開催校企画シンポジウム◆

【時間地理学の新潮流：富山市住民の日常生活行動分析】

日 時：11月2日（日）9:00-10:40
会 場：会場B
企 画：西村雄一郎・大西宏治・瀬戸寿一・
久木元美琴・岡本耕平

1970年にスウェーデンの地理学者トルステン・ヘーゲルストランドがその概念を提唱して以来、世界的に時間地理学の一大ブームが起きた。日本においても1980年代後半以降、時間地理学的な研究が進展してきたが、その後沈静化した。一方、世界的には21世紀になると、位置情報ビッグデータなどを用いた時間地理学のリバイバルが起こっており、現在ではグローバルな時間地理学の研究者ネットワークが構築されている。こうした状況を鑑みつつ、代表者らは富山市の住民の日常生活に対する時間地理学的研究を2022年以降実施してきた。本セッションではグローバルな時間地理学の研究動向について、2024年に富山市で開催した国際会議や関連研究に触れつつ、現在実施中の富山市における事例研究の一部などを紹介し、今後の日本における時間地理学の再興に向けた議論を行う。

◆ハンズオン◆

【Metashapeを使った国土地理院空中写真からのDSM・3Dモデル生成】

日 時：11月2日（日）9:00-10:40
会 場：会場F
企 画：桐村喬

国土地理院の地図・空中写真閲覧サービスからは、戦前の陸軍撮影のものも含め、様々な時代の日本の国土の姿が写された空中写真をダウンロードできます。これらの空中写真データを活用して、DSMや3Dモデルなどを生成していくことで、

PLATEAUでは把握できない、過去の時代の3次元的な空間解析や可視化が可能になります。

本ハンズオンセッションでは、フォトグラメトリソフトのMetashapeを用いて、ダウンロードできる400dpiの空中写真データから、位置精度の高いDSM、オルソ写真、3Dモデルなどを生成する作業手順の解説を行います。また、得られたデータの解析方法やソフトウェアの使用方法、分析方法などについての情報共有・情報交換も行いたいと考えています。参加申込みフォームは <https://forms.gle/KePvVyXjuFKA9LoP7> です。

◆シンポジウム◆

【デジタルアース研究の現状と将来展望（2025）】

日 時：11月2日（日）11:00-12:40
会 場：会場F
企 画：福井弘道

中部大学国際GISセンターは、2014年に文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定を受け「問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点」として、GISをはじめ、情報科学、リモートセンシング、社会工学等に関する研究者との共同利用・共同研究を通じて、サイバースペース上に構築される多次元・多解像度の地球（デジタルアース）の研究開発を推進してきました。さらに環境、災害、感染症等の問題複合体の研究者に対し、デジタルアースを提供し、共同利用・共同研究により持続可能な社会を構築するため、問題複合体を解題し、合意形成に寄与するとともに関連諸科学の発展に貢献することを目的としています。本セッションでは、2024年度の拠点の共同研究成果の報告と、関連研究者によるパネル・ディスカッションを行い、デジタルアース研究分野と問題複合体への学術によるアプローチについて展望します。

◆大会優秀発表賞およびポスターセッション賞◆

【第21回大会優秀発表賞】

対象者は、本学会の学生会員（年会費完納者）で、修士号未修得の、口頭発表発表者に限られます。研究・論文・発表の内容が優れた発表者を司会者や審査員が推薦し、学会賞委員会の議論を経て受賞者を決定します。受賞者数は特に定めません。受賞者は閉会式で発表します。

受賞者には賞状を後日送付し、ニューズレター136号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol. 33, No. 2に発表要旨を掲載します。受賞者は11月15日（土）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

【第14回ポスターセッション賞】

ポスターセッション参加者全員が審査の対象です。なお、今回、ポスターセッションは2日に分けて開催し、指定された1セッションで発表していただきます。受賞者は閉会式で発表します。

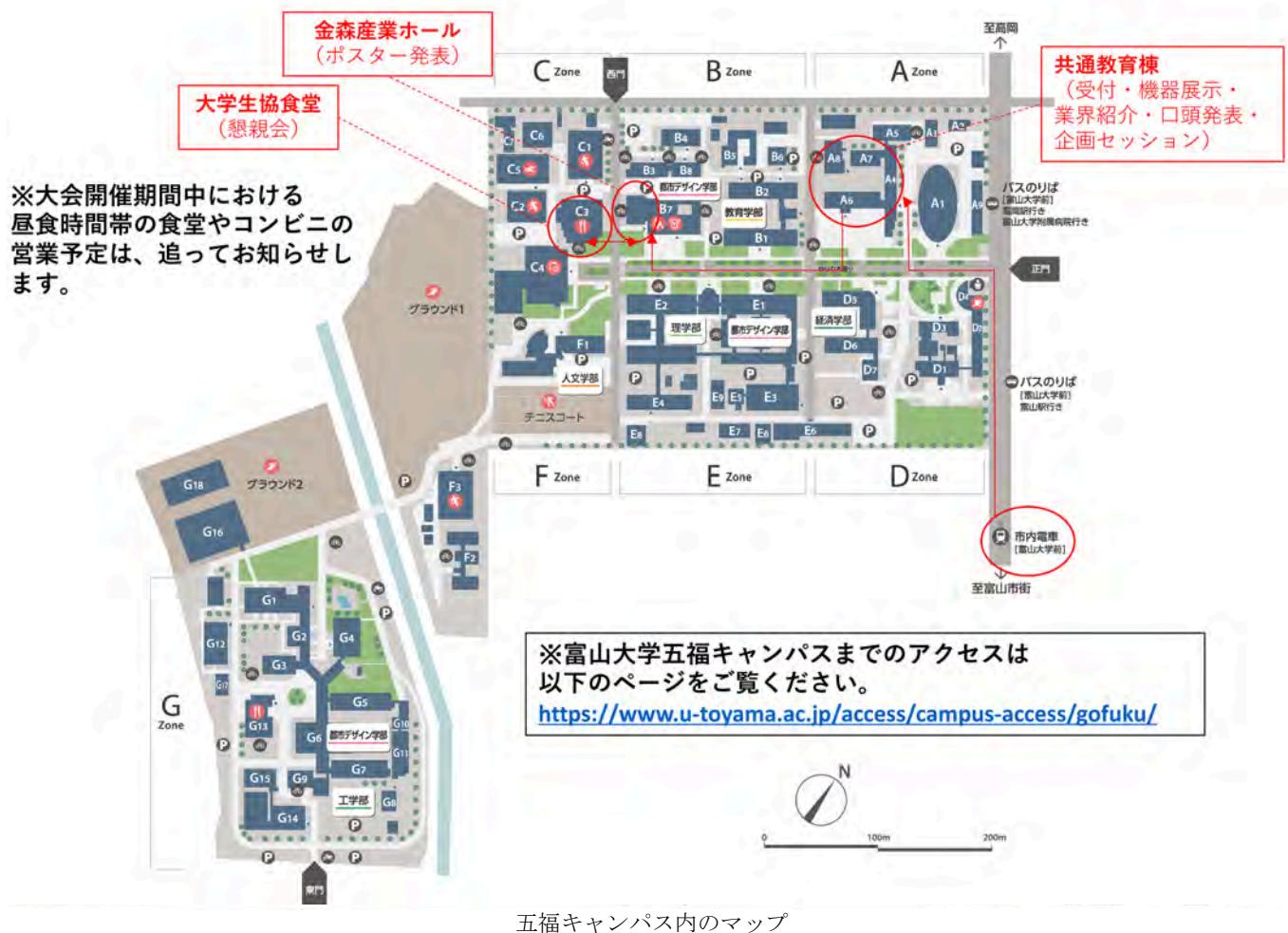
受賞者には賞状を後日送付し、ニューズレター136号に氏名と所属を公表します。また、『GIS-理論と応用』Vol. 33, No. 2に発表要旨を掲載します。受賞者は11月15日（土）までにA4用紙1枚の原稿提出にご協力下さい。

第34回研究発表大会 日程表

- ※ 企画セッション以外の、口頭発表およびポスター発表セッションへの参加には、参加登録と大会参加費が必要です。
- ※ 企画セッションの参加は、企画によって登録が必要なものがあります（参加費は不要）。
- ※ 「赤色」はシンポジウムやワークショップの企画セッションです。
- ※ 「紫色」はハンズオンの企画セッションです。
- ※ 「橙色」はポスター発表セッションです。
- ※ 「無地」は口頭発表セッションです。
- ※ 開始時間等が変更になる場合もあります。最新情報は必ず大会webページでご確認ください。

11/1(土) 8:30受付開始		(C21番教室) 会場A	金森産業 ホール	(C11番教室) 会場B	(D21番教室) 会場C	(A21番教室) 会場D	(A23番教室) 会場E	(A22番教室) 会場F
第1セッション	9:00 - 10:40	FOSS4Gの現在地 "FOSS4G Hiroshima 2026に向けて"		GeoAIの最前線①	<空間解析理論> ※9:20開始	<地域分析1> ※9:20開始	<景観> ※9:20開始	(ハンズオン) 第3回 GISA x MLIT's PLATEAU 研究会
	10:40 - 11:00				休憩			
第2セッション	11:00 - 12:40	2025年度GIS教育実 践アワード 表彰式、 表彰事例報告会(教 育委員会)		GeoAIの最前線②	<土地利用分析> ※12:20終了	<地域分析2>	<移動・交通1> ※12:20終了	人流データの分析、可視 化の現状と研究活用
	12:40 - 13:00				昼休み			
ポスターセッション(1)	13:00 - 13:50		ポスタークオタイム (前半)					
	13:50 - 14:00				休憩			
第3セッション	14:00 - 15:40	学生フリーテーマ発 表会		第3回SIG-GISシンポ ジウム —— 我々は国 際標準の動向に Catch Up できている か	<教育> ※14:20開始	<データ取得・アルゴリズム> ※14:20開始	<移動・交通2> ※14:20開始	GISカードで考える新たな 地域課題解決アイデア 「最初の一歩」から 「ローカライズ版アイデア 創出」まで～(教育委員 会・自治体分科会共同企 画)①
	15:40 - 16:00				休憩			
第4セッション	16:00 - 17:40	地方部の子どもの Active School Travel をいかに支援する か？～地理情報科学 とGISの可能性		(ハンズオン)調査や 研究をより効果的 に！ArcGIS Online セッション	<歴史・考古>	<防災1>	<移動・交通3>	GISカードで考える新たな 地域課題解決のアイデア 「最初の一歩」から 「ローカライズ版アイデア 創出」まで～(教育委員 会・自治体分科会共同企 画)②
	17:40 - 18:00				休憩			
	18:00 - 19:30				懇親会(大学生協)			
11/2(日) 8:30受付開始		(C21番教室) 会場A	金森産業 ホール	(C11番教室) 会場B	(D21番教室) 会場C	(A21番教室) 会場D	(A23番教室) 会場E	(A22番教室) 会場F
第5セッション	9:00 - 10:40	新しい空間データが 切り拓く空間情報科 学の未来①		<富山企画> 時間地理学の新潮流 ～富山市住民の日常 生活行動分析	<可視化1> ※9:20開始	<防災2> ※9:20開始	<移動・交通4> ※9:20開始	(ハンズオン) Metashape を使った国土地理院空撮 写真からのDSM・3Dモデ ル生成
	10:40 - 11:00				休憩			
第6セッション	11:00 - 12:40	新しい空間データが 切り拓く空間情報科 学の未来②			<居住> ※12:20終了	<自然・環境> ※12:20終了	<安心・安全・犯罪分析> ※12:20終了	デジタルアース研究の現 状と将来展望(2025)
	12:40 - 13:00				昼休み			
ポスターセッション(2)	13:00 - 13:50		ポスタークオタイム (後半)					
	13:50 - 14:00				休憩			
第7セッション	14:00 - 15:20				<可視化2>	<防災3>	<データベース構築>	開会式
	15:20 - 15:30				休憩			
	15:30 - 15:50				閉会式			

第34回研究発表大会 アクセスマップ

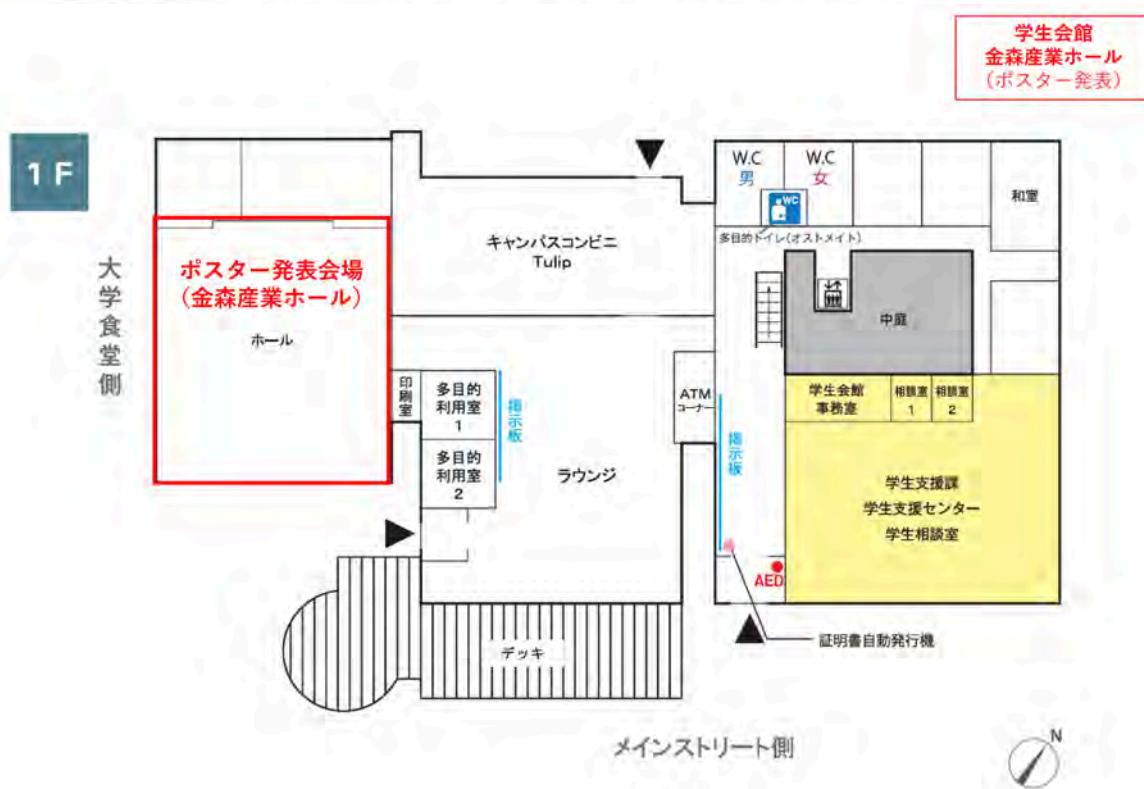


第34回研究発表大会 会場配置図



各建物内のマップ

第34回研究発表大会 会場配置図



各建物内のマップ

【分科会報告】

■ 地理空間情報標準調査会 (SIG-GIS) [事務局長 太田守重 (国際航業)]

1) 第3回 SIG-GIS シンポジウム

SIG-GIS では、GIS 学会富山大会の場において、11月1日 14:00-15:40 に企画セッションを開催します。今年のテーマは「我々は国際標準の動向に Catch Up できているか」です。

SIG-GIS が昨年から実施している ISO/TC211 規格群の現状調査、日本測量調査技術協会による資格認定、さらに AIGID による PLATEAU アカデミーの実施状況について報告するとともに、ISO/TC211 国内幹事会による規格化活動に求められる要件等の解説を行い、議論を深める予定です。皆様のご参加をお待ちしております。

2) 第2回公開型情報交換会

9月6日の午後、以下のプログラムにてオンライン情報交換会を開催しました。

総合司会：黒川史子 (SIG-GIS 幹事、アジア航測)

1. 近年の TC211 標準化の取り組み及び他国における標準化人材育成の事例

笹川啓 (TC211 国内幹事長、国土地理院)

2. BIM/CIM と GIS の連携

司会：政木英一 (AIGID 代表補佐、クロスセンシング) 片山耕治 (建築研究所)・武藤正樹 (建築研究所)

五味俊弘 (ESRI ジャパン)

3. DGGS (Discrete Global Grid System) に関する日本の取り組み

司会：太田守重 (SIG-GIS 事務局長、国際航業)

佐藤彰洋 (横浜市立大学)

田嶋聰司 (情報処理推進機構 (IPA) DADC)

4. 総括

村上広史 (SIG-GIS 代表、青山学院大学)

今回は AIGID 様にご後援をいただき、登壇者を含めて約 90 名の方々にご参加いただきました。これは昨年の 1.5 倍に相当します。

標準化人材育成については、韓国などで実施されている中等教育における標準化オリンピックの事例紹介がありました。BIM/CIM と GIS の連携については、建築確認事務の今後や設計データの企業間連携の実用化に関する議論が行われました。DGGS については、日本発で近々 ISO 規格 (ISO 24108-1) となる世界メッシュ規格の国際展開、さらには空間 ID の国際標準化に関して、密度の濃い議論が交わされました。

なお、SIG-GIS シンポジウムや公開型情報交換会に関するお知らせやスライド等の記録は、SIG-GIS の HP (下記 URL 参照) を通じて公開されます。

<https://sites.google.com/view/gisa-siggis/event>

【学会からのお知らせ】

■ 次期 一般社団法人地理情報システム学会 代議員公募のお知らせ

[選挙管理人 小口高]

今期代議員が本年12月31日に任期満了を迎えることに伴い、定款第17条による次期代議員の公募を下記の通り実施します。

会員の皆様の積極的なご応募をお願いします。なるべく全会員の構成を反映した代議員メンバーとなることを目指すため、多様な方々、特に今まで少数であった若手や女性の会員の積極的な立候補をお願いします。なお、学会を形成する委員会、支部、分科会の運営に関わる活動を行う代議員は、CPD 学習ポイントを申請することができます。

記

1. 代議員の定員 (定款第16条) : 30名以上50名以下立候補者数に応じて、代議員選挙管理規程に基づき以下のように進めます。なお、投票を行う場合の選挙人は、正会員及び永年会員です。
 - ・ 立候補者数が30名に満たない場合 (規程第4条の3) : 追加募集を行う
 - ・ 同30名以上50名以下の場合 (規程第5条) : 信任投票を行う
 - ・ 同50名を越える場合 (規程第6条) : 投票により50名を選出する
2. 立候補の資格 (定款第17条の3) : 正会員及び永年会員
3. 次期代議員の任期 (定款第19条) : 2026年1月1日～2027年12月31日
4. 代議員の主な役割 :
 - ・ (定款18条) 社員総会に出席し審議事項を審議し議決する。
 - ・ (定款24条) 理事及び監事に選任される資格を持つ。これらに合わせ、学会活動 (委員会、学術大会等) で主導的な役割を担って頂くことを期待します。
5. 立候補受付期間 : 2025年10月10日 (金) ~11月7日 (金)
6. 立候補の方法 : 表題を「代議員立候補」とし、以下の①～⑥を記載したE-mailを事務局 (maf-gisa@mynavi.jp) にお送りください。
 - ① 氏名
 - ② 所属
 - ③ 会員番号
 - ④ 連絡先 (E-mailアドレス)
 - ⑤ 当学会での活動歴 (役職等) 又は抱負 (200文字以内)
←選挙人に公開されます
 - ⑥ 推薦人 (正会員 1名) の氏名と所属

■ 委員会、支部、分科会への ZOOM の権限貸与について

本学会では、学会活動を活発化するために、各委員会、支部、分科会の会議に限り、学会事務局の ZOOM の権限を貸与します。ご希望の方は、以下のルールに従ってお申込みください。

1. 事務局に原則として 1 週間前までに事前申請する。
2. 会議の設定・開催は各グループの自由裁量とする。
3. ホストのグループを明示する。
4. 会議終了後には、開催記録 (開催日時、参加者等) の基本情報を事務局に報告する。

-
-
- 会議は必ずパスワード付きで開催し、第三者には明かさない

■ メールニュース受信についてのお願い

BCC または配信先が多数のメールを受信できない設定の企業等団体の方で、学会メールニュースをお読みになりたい方は、個人のメールアドレスを事務局までお知らせください。また、アドレスが変更になった場合は、会員ページよりご変更をお願いいたします。

■ メールニュースへの掲載ご希望の方へ

学会では個人会員を対象に、メールニュースを配信しています。内容は学会からのお知らせ、関連イベント、公募情報が主ですが、掲載をご希望の方は、事務局までご連絡下さい。

なお、ニュースの配信は、毎月第2・第4金曜日を目安にしています。

【学会後援事業等のお知らせ】

■ GIS Day in 東京 2025（後援）

主催： 東京都立大学 都市環境学部
日時： 2025年11月22日（土）
会場： 東京都立大学 南大沢キャンパス
※ GIS 技術教育認定を受けています。受講者には所定の教育時間を受けた証明となる「受講証明書」を発行いたします。

■ GIS Day in やまぐち～衛星データ活用と統合型GIS運用～

主催社名： 一般社団法人 やまぐちGISひろば
日 時： 2025年10月27日（月）10:00-17:00
会 場： 山口大学工学部D11

2025年8月31日現在の個人会員1,045名、賛助会員48社

賛助会員

アジア航測(株), アドソル日進(株), (株)インフォマティクス, エアロトヨタ(株), ESRI ジャパン(株), NEC ソリューションイノベータ(株), 応用技術(株), 大阪土地家屋調査士会, (株)かんこう, 関東中部G 空間情報技術研究会, (財)岐阜県建設研究センター, 九州GIS 技術研究会, 近畿北陸G 空間情報技術研究会, (株)こうそく, 国際航業(株), 国土情報開発(株), (株)古今書院, GIS 支援センター, ジェイアール西日本コンサルタンツ(株), (株)ジオテクノ関西, (株)ジオテクノロジーズ, (株)ゼンリン, 中四国G 空間情報技術研究会, デジタル北海道研究会, (株)東京地図研究社, 東北G 空間情報技術研究会, (株)ドーン, 長野県G 空間情報技術協会, 日本工営都市空間(株), 日本情報経済社会推進協会, 日本スーパーマップ(株), (財)日本測量調査技術協会, (財)日本地図センター, (一財)日本デジタル道路地図協会, パシフィックコンサルタンツ(株), (株)パスコ, 北海道G 空間情報技術研究会, (株)マップクエスト, (株)マップル, (株)松本コンサルタント, 三菱電機(株), (財)リモート・センシング技術センター, 経済産業省特許庁, 国土交通省国土地理院, 国土交通省不動産・建設経済局地理空間情報課, 総務省統計局統計研究研修所, (独)統計センター, 福岡県直方市

地方支部の連絡先一覧

<北海道支部>
支部長：株式会社ドーコン 三好達也
連絡先：NPO 法人 Digital 北海道研究会 (内)
Tel: 011-299-8104, E-mail: gisahokkaido@dghok.com
<東北支部>
支部長：東北大學 井上亮
Tel: 022-795-7478, E-mail: rinoue@tohoku.ac.jp
<中部支部>
支部長：中部大学 福井弘道
連絡先：杉田暁 (中部大学)
Tel: 0568-51-9894
E-mail: satoru.sugita@fsc.chubu.ac.jp
<関西支部>
支部長：大阪工業大学 田中一成
Tel: 06-6954-4293, E-mail: gisa@civil.oit.ac.jp

<中国支部>
支部長：広島修道大学 川瀬正樹
Tel: 082-830-1210, E-mail: kawase@shudo-u.ac.jp
<四国支部>
支部長：高知商科大学 赤塚慎
Tel: 0887-57-2500, E-mail: akatsuka.shin@kochi-tech.ac.jp
<九州支部>
支部長：九州大学 三谷泰浩
Tel: 092-802-3399, E-mail: gisaku@doc.kyushu-u.ac.jp
<沖縄支部>
支部長：沖縄国際大学 崎浜靖
E-mail: sakihama@okiu.ac.jp
連絡先：澤城直彦 (NPO 法人沖縄地理情報システム協議会)
Tel: 098-863-7528, E-mail: takushi7015keisayasaki@gmail.com

学会分科会連絡先一覧

■自治体：小泉和久 (千葉県浦安市)
事務局：青木和人
(あおきGIS・オープンデータ研究所)
Tel: 050-5850-3290
E-mail: kazu013057@gmail.com
■FOSS4G：Venkatesh Raghavan (大阪市立大学)
連絡先：嘉山陽一 (朝日航洋株)
Tel: 049-244-4032
E-mail: youichi-kayama@aeroasahi.co.jp

■若手：関口達也 (京都府立大学)
Tel: 075-703-5428
E-mail: ta-sekiuchi@kpu.ac.jp
■GeoAI：巖網林 (慶應義塾大学)
Tel: 0466-49-3453
E-mail: yan@sfc.keio.ac.jp
■地理情報標準調査会：村上広史 (青山学院大学)
事務局長：太田守重 (国際航業株式会社)
Tel: 03-5656-8685
E-mail: morishige_ota@kk-grp.jp

■編集後記■

今号のニュースレターは、第34回の研究発表大会号です。今年の大会は、富山県富山市の富山大学五福キャンパスで開催されます。ちょうど本日、能登半島からの出張帰りで氷見市、高岡市、小矢部市、南砺市を通過してきました。残念ながら、帰路を急いでいたため、今回は高速道路から降りることはできなかったのですが、大会期間中は富山を堪能したいと思っています！

開催ご準備に携わられている皆さんに深謝申し上げつつ、参加を楽しみにしています。

(中部大学 杉田暁)

地理情報システム学会ニュースレター 第135号 ●発行日 2025年10月15日

■編集・発行

一般社団法人 地理情報システム学会
〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1
パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内
TEL: 03-6267-4550 / FAX: 03-6267-4555
E-mail: maf-gisa@mynavi.jp
URL: <https://www.gisa-japan.org/>